

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年12月24日 (2010.12.24)

【公開番号】特開2008-268852(P2008-268852A)

【公開日】平成20年11月6日 (2008.11.6)

【年通号数】公開・登録公報2008-044

【出願番号】特願2007-290532(P2007-290532)

【国際特許分類】

G 0 2 B 21/00 (2006.01)

G 0 1 N 21/17 (2006.01)

A 6 1 B 19/00 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 21/00

G 0 1 N 21/17 6 2 0

A 6 1 B 19/00 5 0 8

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月8日 (2010.11.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

顕微鏡主対物レンズ (101) と、

物体領域 (108) を視覚化するために前記顕微鏡主対物レンズ (101) を透過する観察光路 (105, 205) と、

物体領域 (108) の像を撮像するための OCT システム (140, 150, 700, 800) とを備え、前記 OCT システム (140, 150, 700, 800) はスキャンミラー構造 (146, 156, 705, 706, 805) を介して物体領域 (108) へと案内される OCT 走査光路 (142, 152, 702, 802) を含んでいる眼科手術用顕微鏡において、

前記観察光路と前記 OCT 走査光路へ出入りするように内方旋回し、外方旋回することができる検眼鏡検査ルーペ (132) が設けられていることを特徴とする眼科手術用顕微鏡。

【請求項 2】

前記検眼鏡検査ルーペ (132) が内方旋回したときに前記 OCT システムの参照光路の光学的な経路長が一定の値だけ拡大されるように、前記 OCT システム 140 と前記検眼鏡検査ルーペ (132) との結合器が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の眼科手術用顕微鏡。

【請求項 3】

前記観察光路と前記 OCT 走査光路 (142) へ出入りするように内方旋回し、外方旋回することができる縮小レンズ (131) が設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 のいずれか 1 項に記載の眼科手術用顕微鏡。

【請求項 4】

前記 OCT 走査光路 (142, 152) へ出入りするように内方旋回し、外方旋回することができる、前記検眼鏡検査ルーペ (132) および / または前記縮小レンズ (131) を備える検眼鏡検査アタッチメントモジュール (130) が設けられていることを特徴

とする請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の眼科手術用顕微鏡。

【請求項 5】

前記 OCT システム (7 0 0) は、さまざまな波長 1 および前記波長 1 とは異なる第 2 の波長 2 をもつ OCT 走査光線を提供するように設計されていることを特徴とする請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の眼科手術用顕微鏡。

【請求項 6】

異なる波長 1、 2 の OCT 走査光線 (1 4 2 , 1 5 2) を提供する第 1 の OCT システム (1 4 0) と第 2 の OCT システム (1 5 0) が設けられていることを特徴とする請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の眼科手術用顕微鏡。